

# EVENT REPORT

## 奈良市 × シビッククリエイティブ シンポジウム2024

イベントレポート



2024年1月13日(土)- 14(日)に開催した「奈良市×シビッククリエイティブシンポジウム 2024」では、「ウェルネス」と「クラフト」をテーマに、奈良市内外で活躍するゲストにご登壇いただき、「シビッククリエイティブ」を発揮するためのヒントや、まちの課題を解決する知恵やアイデアを伺うパネルトークを行いました。

# EVENT REPORT NARA CITY × CIVIC CREATIVE SYMPOSIUM 2024

2024年1月13日(土) - 14(日)に「奈良市×シビッククリエイティブ シンポジウム 2024」を開催しました。会場の奈良県コンベンションセンターには、2日間で約180名が来場し、登壇ゲストの話に熱心に耳を傾ける市民の姿が目立ちました。

奈良市では、“「わたし」からはじめる「わたしたち」のまち 奈良”というビジョンを掲げ、市民との共創によってまちの課題を解決し、多様な人が暮らしやすい、奈良市の歴史や文化を生かした豊かなまちづくりを目指しています。

その取組の一環で開催した本シンポジウムでは、1日目は「ウェルネス」、2日目は「クラフト」をテーマに、まず奈良市の抱える課題と市の取組を市民に共有したうえで、奈良市内外で活動し、シビッククリエイティブ(まちに対して発揮する市民の創造性)を発揮しているゲストによるパネルトークを行いました。

パネルトークでは、ゲストが活動をはじめた意外なきっかけや、まちの課題を解決するアイデア、市民がシビッククリエイティブを発揮するためのヒント、万博の機会の生かし方などについて語られたほか、ゲスト全員が奈良県出身や在住であ



ることから、奈良のもつ魅力やポテンシャルについてもディスカッションが及びました。

また、1月13日にはアフターイベントとして“EXPO MEET UP”が開催され、登壇者や参加者がネットワーキングを行うなかで、まちの課題解決の取組事例などが発表されました。

シンポジウムのアーカイブ映像は2024年8月31日まで限定で公開します。奈良市のウェブサイトからぜひご覧ください。



## PROGRAM プログラム

1.13 SAT 13:30 - 15:30 **ウェルネス×シビッククリエイティブ**

主催者挨拶	仲川 げん (奈良市長)
来賓挨拶	小山 新造 氏 (奈良商工会議所 会頭)
イントロダクション	齋藤 精一 氏 (パノラマティクス主宰 / 2025 年大阪・関西万博 EXPO 共創プログラムディレクター)
プレゼンテーション 「ウェルネス」をめぐる 奈良市の現状・課題と取組	後藤 文造 氏 (奈良市社会福祉協議会 地域福祉第4課 課長補佐) 岩城 伊公子 氏 (奈良市教育委員会 教育センター 教育支援・相談課 係長)
プレゼンテーション&パネルトーク まちの「福祉」を市民と ともにもう一度デザインする	ファシリテーター 齋藤 精一 氏 (パノラマティクス主宰 / 2025 年大阪・関西万博 EXPO 共創プログラムディレクター) 登壇ゲスト 石田 慶子 氏 (まほうの다가しやチロル堂 共同代表 / 一般社団法人無限 代表理事) 播磨 靖夫 氏 (一般財団法人たんぼの家 理事長) 松島 靖朗 氏 (認定 NPO 法人おてらおやつクラブ代表理事 / 安養寺住職)

1.14 SUN 10:30 - 12:30 **クラフト×シビッククリエイティブ**

イントロダクション	齋藤 精一 氏 (パノラマティクス主宰 / 2025 年大阪・関西万博 EXPO 共創プログラムディレクター)
プレゼンテーション 「クラフト」をめぐる 奈良市の現状・課題と取組	奥田 将太 氏 (奈良市観光経済部産業政策課)
プレゼンテーション&パネルトーク 「つくること」と、 どう向き合うか	ファシリテーター 齋藤 精一 氏 (パノラマティクス主宰 / 2025 年大阪・関西万博 EXPO 共創プログラムディレクター) 登壇ゲスト 池田 匡志 氏 (奈良団扇職人 池田含香堂 6代目) 佐野 文彦 氏 (建築家 / 美術家) 千石 あや 氏 (株式会社中川政七商店 代表取締役社長)

# SPEAKERS スピーカー

## ファシリテーター

FACILITATOR



2025年大阪・関西万博EXPO共創プログラムディレクター  
パノラマティクス主宰

齋藤 精一氏  
SEICHI SALTO

1975年 神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD)で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。Omnicom Group傘下のArnell Groupにてクリエイティブ職に携わり、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでのアーティスト選出を機に帰国。2006年株式会社ライゾマティクス(現:株式会社アブストラクトエンジン)を設立。社内アーキテクチャー部門『パノラマティクス』を率い、現在では行政や企業などの企画、実装アドバイザーも数多く行う。2023年グッドデザイン賞審査委員長。2025年大阪・関西万博EXPO共創プログラムディレクター。2023年 D&AD賞 デジタルデザイン部門審査部門長。

<https://panoramatik.com/>

## ゲストスピーカー

GUEST SPEAKER

1.13 SAT. 土

### ウェルネス×シビッククリエイティブ



石田 慶子氏  
YOSHIKO ISHIDA

まほうの다가しやチロル堂 共同代表  
一般社団法人無限 代表理事  
<https://www.tyroldo.com/>

2021年に生駒市に「まほうの다가しやチロル堂」をオープン。地域の子もたちを地域のみんなで支える取組が認められ2022年に「グッドデザイン大賞」を受賞。9月にはこれまでの運営スタイルとは違うモデルを目指す2号店がオープン。本業は生駒市で障害のある子どもや就労支援事業所を運営する一般社団法人無限の代表理事。



播磨 靖夫氏  
YASUO HARIMA

一般財団法人たんぼの家 理事長  
<https://tanpoponoye.org/>

新聞記者を経てフリージャーナリスト。「わたぼうしコンサート」を生み「エイブル・アート・ムーブメント(可能性の芸術運動)」を提供、1999年からケアの文化の創造をめざして「ケアする人のケア」に取り組む。2009年度「芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門」受賞。2016年障害のある人とつくる新しいはたらき方「Good Job!プロジェクト」でのグッドデザイン賞金賞受賞。2022年度文化功労者に選出。



松島 靖朗氏  
SEIRO MATSUSHIMA

認定NPO法人おてらおやつクラブ 代表理事  
安養寺住職  
<https://otera-oyatsu.club/>

こどもの貧困問題解決のため、支援団体や公的機関と協業する「おてらおやつクラブ」を全国展開。2020年11月認定NPO法人化。2018年度グッドデザイン大賞(内閣総理大臣賞)、2021年内閣府女性のチャレンジ賞。共著『ともに生きる仏教』ちくま新書、『不要不急』新潮新書

1.14 SUN. 日

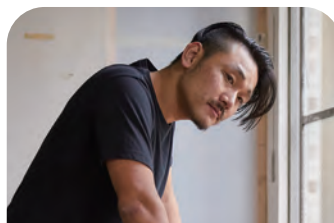
### クラフト×シビッククリエイティブ



池田 匡志氏  
TADASHI IKEDA

奈良団扇職人 池田含香堂6代目  
<https://www.narauchiwa.com/>

1990年、奈良市生まれ。奈良団扇職人。大学卒業後に家業を継ぎ、2012年に170余年の老舗「池田含香堂」の6代目に就任。2015年、経済産業省「The Wonder 500」認定。2018年、奈良伝統工芸展大賞受賞、大英博物館展示。奈良伝統工芸後継者育成研修第4期生。



佐野 文彦氏  
FUMHIKO SANO

建築家  
美術家  
<http://fumihikosano.jp/>

1981年奈良県生まれ。数寄屋建築の名匠・中村外二工務店に大工として弟子入り。2016年文化庁文化交流使として世界16か国を歴訪し各地の文化と交わる数々のプロジェクトを敢行。独自の経験から得た技術と感覚を活かし、建築からアートまで領域横断的に活動している。



千石 あや氏  
AYA SENGOKU

株式会社中川政七商店 代表取締役社長  
<https://www.nakagawa-masashichi.jp/company/>

1976年生まれ。香川県高松市出身。大手印刷会社に入社し、デザイナー、制作ディレクターとして勤務。2011年に中川政七商店に入社し、社長秘書、商品企画課課長、「mino」コンサルティング、「遊 中川」ブランドマネージャーなどを経験したのち、2018年3月より社長を務める。

# HIGHLIGHTS ハイライト

## イントロダクション

### 齋藤 精一 氏

パノラマティクス主宰  
2025年大阪・関西万博  
EXPO共創プログラム  
ディレクター



シビッククリエイティブとは、誰かが作ったサービスを受けるだけではなく、積極的にモノづくり、コトづくりに参加していこうということ。安全安心・便利快適な世の中になり、市民が能動的にならなくてもいい社会になってしまったが、市民参加を取り戻していこうというのが本日のシンポジウムの趣旨。

1.13 SAT.  
土

## ウェルネス×シビッククリエイティブ

## プレゼンテーション | 「ウェルネス」をめぐる奈良市の現状・課題と取組

### 後藤 文造 氏

奈良市社会福祉協議会 地域福祉第4課 課長補佐

### 岩城 伊公子 氏

奈良市教育委員会 教育センター 教育支援・相談課 係長

ひきもりや不登校によって孤立してしまった子供達には自分らしくいることができる「居場所」や「つながり」が大切。制度だけではつながりが創れない。つながりを生む「市民力」がいま求められている。



## プレゼンテーション&パネルトーク | まちの「福祉」を市民とともにもう一度デザインする

### 石田 慶子 氏

まほうの다가しやチロル堂 共同代表  
一般社団法人無限 代表理事



福祉では、色々な問題が複雑に絡まっている。しかし問題に対して支援は縦割り、十分に手が届かない。課題解決型の支援は重要だが、その裏側にある孤独や孤立を癒すことはできず感じていた。そこで、一方的に支援する側、される側という設定をしない、誰が誰を癒すかは想定しない、「偶然性」による支援が必要だと思った。

自分の原動力は、境界線を超えたときのエネルギー値。中で考えることに限界を感じる。「こうすべき」「この業界」「このライン」をいつも超え続けることで何か生まれ続ける。

# HIGHLIGHTS ハイライト

## 播磨 靖夫 氏

一般財団法人たんぼの家 理事長



障害があっても不幸にならない未来を目指して奈良で50年やってきた。障害者をめぐる制度やシステムは昔に比べたらはるかによくなってきたが、その制度やシステムからこぼれるものがあることに気がついた。それは人としての悲しみ、苦しみ、痛みであり、それを癒せるのは芸術文化。

歩く、見る、聞くが記者の基本。大きな組織が小さな声を聞けていない。だからこそメディエーター（媒介者）が必要だと思った。

「温故知新」というが、奈良は古きを訪ねることはできている。もうひとつ大切なのは「温故創新」。奈良はローカルイノベーション、市民研究の本場になれる。

2013年の大阪の餓死事件をきっかけに取組を始めた。「子どもの貧困」を「おてらの習慣」（おそなえ・おさがり・おすそわけ）とつなげることで解決を目指している。

「子どもの貧困」という共通の課題を真ん中に置いたことによって、色々な宗派を超えて全国に取組が広がって行った。「おそなえ・おさがり・おすそわけ」は長く続いている慣習であり、みんなが真似できる行為。

誰もが「助けて」と言える社会にしたい。助ける、助けられるという役割分担がある話ではなく、その行為を誰が担うかということを自由に、無限の選択肢を社会が持っていることが大事。

## 松島 靖朗 氏

認定NPO法人おてらおやつクラブ代表理事  
安養寺住職



# HIGHLIGHTS ハイライト

1.14 SUN.  
日

クラフト×シビッククリエイティブ

## プレゼンテーション | 「クラフト」をめぐる奈良市の現状・課題と取組

**奥田 将太 氏** 奈良市観光経済部産業政策課

様々なバックグラウンドを持っている市民の方々に奈良工芸について知って、関わってもらえることで何かが生まれると期待している。「工芸」と何かを掛けあわせる取組を市、作家、それ以外の方と一緒にやっていくことで大きいコミュニティ循環を生むことを目指している。



## プレゼンテーション&パネルトーク | 「つくること」と、どう向き合うか

**池田 匡志 氏**

奈良団扇職人 池田含香堂6代目



工芸品は工業製品と異なり作品と一緒にあったり、作品を感じたりすることができるのが魅力。便利な世の中で削ぎ落とされた「無駄」と言われる部分をあえて自分の中に取り入れることで、視野が広がっていく。

何をするにも「暮らしを豊かに、楽しく」というのが一番。暮らしの幸せを感じられるのが伝統工芸。

奈良団扇を実際に手にしてもらえれば、気持ちのいいやわらかい風を送ってくれる、インテリアとしても美しいものだとかってもらえる。しかしお客様に実際に手に取ってもらわなければ伝わらない。万博を奈良団扇を知ってもらう大きなきっかけとしたい。

様々な地域で受け継がれてきた「もの」「こと」がどんどん失われている。価格や効率化だけではなく、地域の人々がつむいできた文化や産業・観光などの地域資源を現代に合った形に編集すること、また、より本質が伝わる表現や環境をつくっていくことが大切である。

工芸の分業制の話があるが、建築でも工事内容により分業している。工程全体を把握できることは大切だが、各分野のスペシャリストをいかに集め全体の質を上げていけるかが仕事のクオリティ向上につながるだろう。

クリエイティブ業界を目指したいと考えた時、「美大に行っていないと挑戦できない...」と考えやすいが、私自身は専門教育を受けておらず「興味がある」「やってみたい」の思いを強くして行動していったことにより今のような形になった。

**佐野 文彦 氏** 建築家/美術家



# HIGHLIGHTS ハイライト

## 千石 あや 氏

株式会社中川政七商店 代表取締役社長



いまは地域に根ざしたデザイナーがたくさんいる。地元のメーカーとデザイナーがマッチングしてものづくりをしていけば初期から伴走していけるのではないかと、ということで「地産地匠アワード」を始めた。様々な地域で一番の課題がマッチング機能の欠如。佐賀や山形は行政がマッチングを行っているが、奈良でもそういった動きがあるといい。

工芸の背景には地域の文化、風習が色濃く紐づいている。例えばお祭りがなくなるとそれに付随したあらゆること、道具や言い伝えが無くなっていく。そうした文化風習をつないでいく意味でも工芸を大事にしていきたい。自分の欲しいものをちゃんと選んで、暮らしを作るという思想のあるお客様が増えているので、たくさん作ってたくさん売るのはなく、どう作ってどう届けるかを大切にしたい。



※シンポジウムにおける登壇者の発言を基に編集。

奈良市の中でもアクティブに活動されてる方々のエネルギーが大きいところと、そういった方々のパワーが地域それぞれの動力になっていくことを感じました。

奈良市にはたくさんの情熱家が居てるんだと実感しました。

## アンケートからご紹介！ シンポジウム参加者の感想を

変わらないと言われ続けてきた奈良だけれど、みんなの熱い想いが合わされば、もっと良くなっていけるかも。

奈良市がまちづくりに関するプログラムを積極的に、多く開催されていることをあまり知らず意外でした。また万博につながるような取り組みをされていることも知らず、とても良い方向にイメージが変わりました。

QUESTIONNAIRE

# COLUM コラム

## サイトビジット&オープンディスカッションを併催!

市民がシビッククリエイティブを発揮する市民参加型の共創プログラムとして、2025年の大阪・関西万博を契機に奈良市への誘客を図る観光コンテンツの造成を目指したサイトビジットとオープンディスカッションを開催しました。

2日間で約20名の市民や大学生、ビジネスパーソン、奈良市観光協会、奈良市職員などが参加し、1月13日には「たんぽぽの家アートセンターHANA」、1月14日には「池田含香堂」「なら工芸館」を訪問して、施設のコーディネーターや職人から直接説明を受けながら、見学体験をしました。



その後のワークショップ形式で行われたオープンディスカッションでは、各施設への訪問体験をもとに「奈良市への誘客を図るための産業観光のコンテンツ」についてそれぞれ考え、妄想を実現につなげられるようにアイデアを具体化するためのディスカッションをグループで行いました。



約1時間という限られた時間ではあったものの、創造的なアイデアとともに活発な議論が行われ、観光を通じて福祉産業やクラフト産業を外に開いていく試みに今後も参加したいとの期待が参加者から多く寄せられました。

### 受入れ先の感想

地元に住んでいるからこそ生まれるアイデアに気づきをいただきました。

たんぽぽの家 竹谷ゆかりさん

参加者のみなさまとの新たな関係構築のスタートとして、アイデアのいくつかでも実現できればと思っています。

なら工芸館 長屋公美子さん

## アフターイベントとして EXPO MEET UP を実施!

1/13(土)にはシンポジウムに引き続いてEXPO MEET UPを開催し、奈良のまちの課題解決や魅力創造に関心を持つ方々が集いました。奈良市が2025年以降に向けて取り組んでいる「(仮称)奈良共創チーム」の紹介に加え、奈良でまちづくりに取り組む団体からショートプレゼンテーションが行われました。



**奈良市は市民とともにまちをつくる  
「シビッククリエイティブ・シティ奈良」を目指し、  
引き続き取組を進めてまいります。**

問い合わせ先

奈良市総合政策部総合政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1 奈良市役所中央棟6階  
Tel: 0742-34-4786 Fax: 0742-34-4953